

もろびとこぞりて・Ver. 2, 3

北村
想

登場人物

さなえ

さざり

まつみ

初秋。

空は深くなる決意をみせ、小さな秋をしのばせた風が黄昏の街角に舞い降りる。屋外にテーブルを持つガーデン・カフェの石畳もやがて银杏やポプラの落ち葉で埋まるだろう。

ひとつの円卓に三つから四つの椅子が配置される、そのガーデン・カフェの一端の卓に二人、同年配の女性が在る。

さなえ、と、さぎり。

演劇的舞台効果において、他の卓と椅子はなくてよい。ただ、その背の壁の向こうには屋内のカフェがあり、その出入り口があつて、化粧室へとつながることが暗示されていたほうがワカリいい。

テーブルには、水が入った透明のグラス・コップが人数分の二つ、置かれているだけだから、まだ注文の品物は運ばれていないようだ。

さなえ、さぎり、双方とも特に話をするでもなく、何かシナリオらしいものに視線を落としていた。

が、

さなえ (突然、顔を上げて) 『もろびとこぞりて』って何かしら。

さぎり (質問が自分に向けられているとは気づかないで) ……。

さなえ (今度はハッキリと対象がわかるようにさぎりをみて) ねえ、『もろびとこぞりて』って何かしら。

さぎり えっ。

さなえ だから、『もろ

さぎり (遮って) この本(手にしているシナリオだ)のタイトルのこと聞いているの。

さなえ そうよ。それ以外にナニがあるというの。

さぎり (テーブルの下や、彼方をみやる)

さなえ 何してんの。

さぎり だから、捜してんのよ。

さなえ 何を。

さぎり それ以外があるかなと思って。

さなえ あるの、他に。

さぎり ワカラナイから、捜しているのよ。

さなえ (しばし、さぎりの挙動をみているが) 立派なもんね。

さぎり えっ、何が。

さなえ 冗談というの、そういう実践の行いを伴うと立派だといってるの。

さぎり 一実践の行い一って、何よそれ。コトバが変じゃない。

さなえ あら、そう。

さぎり だって、実践は実際に行くことでしょ。

さなえ まあ、そうね。

さぎり そういうのを、馬に乗馬するっていうのよ。

さなえ それもいうなら馬から落馬するじゃなかったかしら。

さぎり (そうか、そうだったなとは思いつつ) そういう地方もあるけど。

さなえ 何処よ、そういう地方って。

さぎり (やや逡巡があるが) モンゴルとか。

さなえ モンゴル。なんでモンゴルなの。

さぎり だって、騎馬民族でしょ、モンゴルって。

さなえ さぎりさん、あなたって、(と、彼女もまた逡巡するが) こう、どういえばいいかな、こ
う、(譬えを考えているが、思いついたらしく) 雨の日に、傘をさして歩いていることを
忘れて軒下に雨宿りするようなこと、よく(頻繁に) いうわよね。

——間。

(どんな間かというと、散文の小説ではこういう場合——得意気なさなえの表情を、訝し
むかのようにさぎりはみつめて——てなふうに表示するのだろうが、戯曲の場合は〔間〕
でいい。

さぎり (考えてもワカランのは、自分の頭が悪いのか、それともさなえの譬えが変なのか。とり

あえず) ナニ、それ。どういう譬え。

さなえ だから、間違ってるんだけど、説得力はあるというか。

さぎり その譬えが、雨宿りなの。

さなえ (眉間に皺がよる) んん、いまの譬えは、あんまりいい譬えではナイということは認めるけど、(きつぱりと)意味はそうよ。

さぎり そうって。

さなえ だから、間違ってるんだけど、何だか説得力はあるのよ。

さぎり 何が。

さなえ あなたのいうことよ。

さぎり モンゴル。

さなえ そう。モンゴル。

さぎり モンゴルがどうしたの。

さなえ どうしたのっていわれても、えっと、そのモンゴルの地方で、馬が乗馬するっていうとか、

その、騎馬民族だから。

さぎり さなえさん。(と、突っ込みを入れるのがありありとワカル構え)

さなえ 何よ。

さぎり いくら、騎馬民族でも、馬に馬が乗るワケないわよ。

さなえ えっ。

さぎり いったでしょ。馬が乗馬するって。

さなえ あら、そんなこといったっけ。

さぎり いったわよ。

さなえ いったのは、あなたじゃないの。

さぎり 私が、そんなバカなこというワケないわよ。

さなえ あなた、いわなかったかしら。

さぎり 私がいったのは、えと、(と、ど忘れしている)

さなえ いったでしょ。

さぎり (話題を変えんとして) だから、モンゴルがどうしたって。

さなえ いいわ、もうモンゴルは。

さぎり いいの。

さなえ いい。

さぎり (手のシナリオに視線をもどそうとする)

さなえ よくはないけど。

さぎり どっちよ。

さなえ だから、私があなたに質問したのは、それじゃないでしょ。
さぎり それって。

さなえ その、（違うとは半ば思うが）モンゴルでは馬のことをどういうか。
さぎり 知らないわよ、そんなこと。私、モンゴル語なんて全然知らないわ。

さなえ （ゆっくりと）ストップ。私が混乱した。そういうことを私は質問したんじゃないわ。
ごめん。

さぎり 知ってた？モンゴルでは、かの有名なチンギス・ハンの時代にはまだ文字はなかったんだ
って。

さなえ モンゴルは、もういい。

さぎり 日本の相撲って、もうモンゴル相撲と呼んでもいいんじゃないかな。（独り言のように）

さなえ だから、モンゴルはいいの。

さぎり モンゴル料理にジンギスカン鍋ってあるでしょ、でも、あれって鍋じゃないわよね。強い
ていうなら鉄板焼きよね。

さなえ （肯定しているというよりも、面倒くさくなってきているので）そうね。モンゴルの話題
は終わりましたよ。

さぎり 日本人て民族的に雑種だから、モンゴルの血も交じってるって、

さなえ （半ば発作的に、コップの水をさぎりに浴びせる）

さぎり （特に驚いたふうでもなく）何のマネ。

さなえ （取り繕わんとして、つまり理性的であろうとする懸命の努力というものがいわせたのだ
ろう）無作為の必然性よ。

さぎり えっ、えっ。（ワカラナイ様子）

さなえ 無作為の必然性というのは、作為的でなく、けれど必ず起こる出来事よ。

さぎり それが、あなたの場合コップの水を私にぶっかけることになるの、さなえさん。

さなえ 結果的蓋然性としてはね。

さぎり えっ、えっ。（またナニをいわれたか、？となって）

さなえ つまり、早くいえば、何だか腹が立って、その、（気を落ち着けて）ごめんなさい。ちょ
っと迂闊。早まった。ゴメン。

さぎり （じつとさなえをみつめるが、視線をシナリオにもどして）私は平気だけど。

さなえ 平気、平気なの、あなた。

さぎり 平気よ。

さなえ 水を浴びせられたのよ。

さぎり 私はヒステリーじゃないもの。

さなえ ヒステリー。

さぎり そうなんじゃないの。(あくまで、視線はシナリオにある)

さなえ 冗談いわないでよ。私はそんなじゃないわ。

さぎり (空になったさなえのコップを指さす)

さなえ だから、謝ったでしょ。

さぎり ヒステリーなんだ。

さなえ (またも、コップを手にするが、空だから、今度はさぎりのコップを手にして、再度さぎりに水を浴びせる)

さぎり (いたって冷静・を装っているのかも知れないが) 癖なの。

さなえ 何が。

さぎり ひとに水をかけるのが。

さなえ そんな癖のひと、いるもんですか。

さぎり (さなえを指さす)

さなえ だから、何ていうのかな(と、適宜なコトバが閃いたらしい) あっ、焦燥。焦燥よ、わかる。

さぎり 焦燥、ってイライラすることの焦燥。

さなえ (たいへんに気に入ったらしく) 素敵。素敵、よ。

さぎり 焦燥をもよおすと、ひとに水をかけるのが、さなえさんの癖なのね。

さなえ 癖じゃナイ。

さぎり だって二回も。

さなえ 当然の行為よ。

さぎり 無作為の必然だったり、結果的蓋然だったり、当然の行為だったり、いろいろあるのね、ひとに水を浴びせるのにも。

さなえ だから、謝ったでしょ。謝罪。いいわ、ゴメン。ごめんなさい。これでチャラにして頂戴。すいませんでした。(頭を軽く下げる)

さぎり で、さなえさんの聞きたいことって、モンゴルの何なの。

さなえ (耐えるように沈黙して)

さぎり 水はもうないわよ。

さなえ あなた、イジメ派ね。

さぎり 何よ、そのイジメ派って。キリスト教会のメソジスト派とか、インマニエル派とか、そういう派閥のこと。

さなえ ひとをイジめるのが好きなのね。

さぎり 私が。

さなえ そう、あなたが。

さぎり 私は、イジメにあってきたことはあるけど。

さなえ あなた、イジメられたの。

さぎり 小学校の時はね。

さなえ 何で。

さぎり だって、貧乏だったから。

さなえ 貧乏だったの。

さぎり まあ、過去形でいうのも何だけど。いまでもけして裕福じゃないから。でも、いまは自分の責任においてでしょ。だけど、小学生の時の貧困は私のせいじゃないわ。

さなえ 誰のせいなの。

さぎり 両親のせいに決まってるじゃない。

さなえ お父さんの仕事がうまくいかなかったの。

さぎり 知らないわ、そんなこと。

さなえ でも、両親のせいなんですよ。

さぎり だから、ね、他に誰がいるのよ。こっちはガキなんだから家庭の経営状態がどうだったなんて、帳簿みてたワケじゃナイんだから、知ってるワケないでしょ。

さなえ 家庭の場合、経営状態というより経済状況というほうがいいんじゃないかしら。それから帳簿というより、家計簿だし。

さぎり ともかく、イジメられていたっていう事実が変わりはナイわ。

さなえ どのなの、イジメって。

さぎり 具体的に説明しろっての。

さなえ えっ、（自分がイジメに対して興味を持ち過ぎたかという反省もあるのだが）そうね、そうよ。

さぎり （意外にあっさり）グラント引き回しとか、カンチョーとか。

さなえ グラント引き回しって。

さぎり 運動場を、こう、亀を引っくり返したみたいに、ランドセルを背中にしたまんまで、足引つ張られて、ズルズルと、

さなえ 残酷。

さぎり ランドセルが傷だらけになったわ。

さなえ あらあ。

さぎり カンチョーはこれよ。（と、両手を握り合わせて、人指し指を立て）グサツ。

さなえ ちゃんと入ったの。

さぎり ちゃんと入ったって、どういう質問、それ。

さなえ だから、（ちよつと辺りを窺うが）人指し指よ。入るところ間違ったら、小学生で処女膜が破れたりとかさ。

さぎり 考え過ぎよ。

さなえ 心配してんじやん。

さぎり 小学生の私を心配してどうなるのよ。

さなえ そういわれると、身も蓋もないけど。

さぎり イジメなんていまに始まったことじゃなくて、むかしからあるのよ。医療過誤もそう。むかしからあるの。誤診で何人も死んでんのよ。たまたまいま、それが取り上げられる世の中になっただけ。

さなえ ああ、あなた、副職は病院内の保育所だったわね。

さぎり そう。看護師さんの子供預かるの。あのね、（と、いつてから暫し、時間が経っていく）

さなえ （焦れて）何よ。

さぎり 貴女にだから話すけど、夜間の救急医療って、あれ、アルバイトで医者の子がやってるのが多いのよ。

さなえ 医者って玉子産むの。

さぎり いい、もう、話してあげない。

さなえ ゴメン。ほんの冗談じゃない。怒らないでよ。

さぎり （さほど気にしていなかったか、話したいのか、ワリにあっさり）QQ車から連絡が入るのよ。そうすると当直のアルバイトくんが、根掘り葉掘り患者の状態とか症状とか聞くの。根掘り葉掘りの、根のほうはワカルけど。だって、あれって地下茎だもの。でも葉を掘るっていうのはどういうことなのかしら。

さぎり （やや沈黙して、耐えたようだが）そういう誘惑には負けないの私は。

さなえ えっ。

さぎり 話をホンミチから逸らせはしないってこと。

さなえ はいはい。

さぎり (決意もかたく) それからアルバイトくんどうすると思う。

さなえ 手術が必要なならその準備とか、いえ、まず検査よね。その準備ね。

さぎり ブーツ、ハズレ。

さなえ じゃあ、何すんの。

さぎり 医療事典というか、簡単にいえば、救急マニュアルを持ち出してきて、どういうふう治療すればいいか、一生懸命読むのよ。

さなえ うっそ。

さぎり ほんと。だから、よほどのことがナイ限り、ネットで検索して、たいてい今の医者がいったり処置したりする程度のことはいや、もっと適切なことが要領よく書かれているから、それ読んで自分で治療したほうがマシよ。

さなえ そういうものなの。

さぎり そういうものなの。

(作者注 お気づきと思うが台詞語尾の？マークはワザと外してある。こういうマークは散文小説なら有効だが、戯曲の場合は演出、演技の妨げにしかない。と、頑固に思っているからだ)

さぎり じゃ、だいたいにおいて、看護師さんのベテランさんのほうがよく知っているから、ベテランさんが指示したりするけど。

さなえ それで、看護師が間違っただけのこのしただけってケースが多いワケか。

さぎり そう。医者なんて、何にも知らない若造だから、オロオロしてるだけ。で、看護師のベテランさんに、治療の大雑把なところを事前に訊ねるのよ。でも、面倒臭いでしょそんなの。だから、看護師さんがやっちゃうのよねえ。

さなえ そうなんだ。

さぎり そうなのよ。

さなえ さてと、

さぎり 何、どうしたの、トイレ。

さなえ それもそうだけど。

さぎり トイレなら、あっちよ。

さなえ 知ってるわよ。ここ、初めてじゃないんだから。

さぎり さてと、で、何なの。

さなえ あのさ、

さぎり (殆ど無視するように、あるいは相手がそういいたかったと確信を持って) 遅いわよね、
アールグレイ。

さなえ そうじゃなくて。

さぎり そんなにここ、屋内も混んでなかったわよね。(屋内のほうを覗くような身振りで) 今日、
平日だし。

さなえ あのさ、そうじゃないの。

さぎり だって、アールグレイをホットで二つって注文しなかったっけ。

さなえ したけど、あのね、私は最初に発した私の質問について、もう論じてもいいかなと思うの
よ。

さぎり 何。モンゴルのこと。

さなえ あってるのは「モ」だけ。

さぎり モ、モ、モモタロサン。

さなえ そういう挑発にはもう乗らないの。

さぎり あっそ。でっ。

さなえ これよ(と、シナリオを軽く指で弾いて) 『もろびとこぞりて』よ。

さぎり ああ、うん。

さなえ だから、あなた、知ってるの。

さぎり 何を。

さなえ 意味よ。

さぎり 私たちが生きてる意味。

さなえ そういう大それた哲学じゃなくて、このシナリオのタイトルの意味。

さぎり (シナリオの表紙を観る) うん。

さなえ わかるの。

さぎり もろびとこぞりて、でしよ。

さなえ そう。

さぎり 暗証番号。
さなえ 違うと思う。
さぎり パスワード。
さなえ ハズレだと思う。
さぎり 歌のタイトル。
さなえ 何だ、知ってるじゃない。
さぎり からかったのよ。
さなえ あなたって、人参ね。
さぎり 何よ、人参で。
さなえ ピーマンでもいいんだけど。
さぎり あっ、そうか。嫌いなんだ、人参とピーマン。
さなえ そっ。あなたは人参ピーマン炒めみたいな性格だわ。
さぎり つまり、
さなえ 食えないヤツ。
さぎり (軽く拍手) 座布団一枚どうぞ。
さなえ 二枚欲しいくらいだわ。
さぎり で、『もろびとこぞりて』が、どうしたっての。
さなえ 歌のタイトルなんですよ。どういう意味なの。
さぎり (凝っとさなえをみつめる)
さなえ (了解したのか諦めたのか) わかった。
さぎり わかったの。
さなえ あなたが、知らないということはワカッタ。

2

べつに溶暗も暗転も、もちろん、溶明も明転もしない。
突然「2」になったのは、ここで登場人物がひとり、増えるからである。
つまり、ウエイトレスがアールグレイを持って登場する。

ウエイトレス お待たせいたしました。アールグレイでございます。

さざり 遅かったわね。

ウエイトレス (特に物怖じせず) ご注文は、以上でよろしゅうございますね。

さなえ あら、

さざり まっ、

さなえ・さざり めずらしい。

ウエイトレス 違いましたか。アールグレイ。

さなえ いいえ、そうじゃなくて、

さざり ふつう、ほら、ご注文は以上でよろしかったでしょうかって、過去形使うじゃない、いま、どこでも。

さなえ そう、それに、こちらアールグレイでございます、とか、ほら、頭に「こちら」ってつけるわよね。

さざり そうそう。

さなえ そういふのじゃナイ、ふつうの常識的コトバ使いつて、

さざり・さなえ めずらしいわよねえ。

ウエイトレス (みつめられているので、視線を逸らさんとして) めずらしい、というなら、アールグレイをホットでご注文のお客様も、最近は当然のごとくにいらっしゃるんですが、一昔前はめずらしかったんです。

さなえ そうよねえ。

さざり あら、どうしてかしら。私、ワカンナイ。

さなえ 何を乙女ぶってるのよ。アールグレイというのは本来はアイス専用の紅茶よ。そうでしょ、ウエイトレスさん。

ウエイトレス さようでござんすね。アールグレイを日本人がホットで飲みだしたのは、『スタートレック・ネクストジェネレーション』いわゆるファンのあいだでは『TNG』と称される、アメリカのSFテレビドラマで、主役のジャン・リュック・ピカード艦長が愛飲していたのを、真似たのが始まりとか聞いております。

さなえ あら、お詳しい。

さざり へーえ、知らなかった。

ウエイトレス、エプロンをとると、空いている椅子に腰を下ろした。空いている椅子はさなえとさざりの真ん中であつたので、つまり彼女は、さなえとさざりの中央に座り込んだ

カタチになる。

ウエイトレス で、なんざんすかその、『ころびともぞりて』に何か謎があるんですか。
さぎり あなた、座り込んで、お仕事はいいの。

ウエイトレス 私、まつみと申します。(腕時計をみて)午後5時。私の就業時間は終了いたしました。つまり、私、もうウエイトレスではありません。

さなえ じゃあ、何。

まつみ 同じです、あなた方と。

さなえ・さぎり 私たちと。

さぎり 客ってことなの。

まつみ いいえ。

さなえ じゃあ、何。

まつみ 身はウエイトレスにやつせども、私は女優です。私は女優、私しかもめ。

さぎり 私、魚の目あるんだけど。(自分の足に手をやる)

さなえ (無視して)あなた、女優なの、えっと、

まつみ まつみと申します。あいあい。して、母(かか)さんの名はく(何だかわカラナイかも知れないので、一応注釈。浄瑠璃をやっているのである。浄瑠璃の名人に義太夫という名前のひとがいたことから、これを義太夫と称するようになった。また、人形芝居を付け加えて、これが人形浄瑠璃。その本場が大阪の文楽座であったので、これを文楽と称するようになった)

さなえ (一応止める)わかった。わかりました、はい。

さぎり 魚の目だけど、

さなえ (これも止める)いい、魚の目の話はいい。

さぎり あっそ。

さなえ (まつみを指して)彼女、女優なんだって。私たちと同じ。

さぎり どの劇団。私たちは、この近所の、

まつみ 劇団メーテルの女優さんですね。ええ、存じておりますよ。

さなえ 私、さなえといます。

さぎり さぎりです。

まつみ さなえさんに、さぎりさん。こちら(さなえのほう)の方は時々テレビのSMで拝見して

おります。ご活躍のようで。

さなえ SMじゃなくて、CMだけだね。

まつみ おっと、失言、釧路の冬。

さざり 何それ。

さなえ たぶん、北海道の釧路湿原の洒落だと思う。

まつみ 当たり。ですけど、ふつうそういう時は、突っ込んでくれなきゃ。

さざり 何か突っ込むの。

まつみ ボケと突っ込みですよ。

さざり 何処へ突っ込むの。

さなえ (さざりに) あなたはホンモノのボケね。

さざり へっ。どういうこと。失礼な。(一応、プイっとむくれて明後日を見るふう)

まつみ 私はフリーなんです。フリーでハーフの役者をしています。

さざり (明後日から突然もどって) えっ、あなた、ハーフ。何人(なにじん)なの。

さなえ ハーフタイムのことよ。私たちと同じ。他にバイトしながら舞台もやってるのをハーフタ

イムの役者っていうんだってさ、アメリカなんかじゃ。

さざり ほえ、カッコいいじゃん。

まつみ ですから、私の場合、ウエイトレスは現し世の仮の姿なんです。

さざり (さなえに) ウツシヨのカリノスガタだって。(もっとも、多少、いや充分にまつみを揶

揶している)

さなえ まあね、いま東京じゃ、ウエイトレスに石投げたらタレント志望の娘(こ)に当たるって

いうくらいだからねえ。

さざり ねえ、むかし、うず潮(しお)って名前の洗濯機あったよね。

さなえ (当然のように無視する) 舞台、やってらっしゃるの。(と、まつみに)

まつみ はい、時々。こんな私でも、お誘いの声がかかります。なんしろ東京は劇団の数が腐るほ

どありますから。

さざり 腐ってる劇団も数多いけどね。

まつみ 年に一度は、同じ故郷(こきょう、ふるさと、くに、何れの読み方でもいい)から出てき

た友人と、ささやかながら公演しています。

さなえ お故郷(くに)は何処なんですか。

まつみ 南国土佐は高知です。

さなえ あら、四国なんだ。（という、このコトバにはけっこう深い意味があるのである。というのもも四国というのは演劇後進地方としては、名古屋と並んで、東京の演劇人のあいだでは有名だからだ。かつては、名古屋人と四国の出身者である俳優は出身地を隠したものだ）

さざり 『南国土佐を後にして』って歌があったわね。（唄いだす）くなあんごくう と
おさあを あくとにいいいてえく。

さなえ （軽く止める）ジャスラック。（別に英語でやめろといってるのではない。スラングに近い。日本音楽著作権協会の呼称である）

まつみ （ところが、続けて唄ってしまふ。ワリとリキ入って）くみいやこおへ きいてかあらしいくうとおせええぞおく。昭和34年の歌謡曲ですね。ペギー葉山さんがお歌いになって大ヒットしました。映画でもタイ・アップで同名の映画が創られました。これは小林旭さんの初主演作で、小林旭さんも大ブレイクいたしました。

さざり 作詩・作曲が、武政英策さん。これだけ注釈入れとけばいいんじゃない。

さなえ まあね。

まつみ （脚本を覗き込んで）はあ、それが『ころびともぞりて』なんですね。

さざり ねえ、このタイトルをどう読めば、そういうふうに読めるの。

まつみ えっ、（と、脚本を睨んで）ああ、もろ『もろじろこぼいて』ね。

さざり あなた、日本語読めないの。ほんとにハーフなんじゃないの。お母さんインド人でしょ。ネイティブなんでしょ。

まつみ （ポッケからメガネを出してかける。で、読む）『もろびとこぞりて』。

さなえ 何だ、目が悪かったのね。

まつみ ええ、今日はコンタクトを忘れたもんですから。

さざり しかし、そんなふうに残んじやうかねえ。（と、台本をタテにしたり、ヨコにしたり。一脚本でも台本でもシナリオでもいい。と、これは作者のココロの声）

まつみ で、この『ころびともぞりて』に謎が、コードがあるんですか、コードが。

さざり 『もろびとこぞりて』だつたの。

さなえ 謎というか。

まつみ コードですね、コード。

さざり 何、コードって。

さなえ 暗号じゃないの。

さざり 暗号のことコードっていうの。

まつみ ええ、コード。暗号。坂口アンゴ。ア〜ンツゴオツ！

さざり あなた、ほんとに女優。

まつみ すいませんね、うちは喜劇が多いもんですから。

さざり うちって、フリーなんでしょ。

まつみ はい。正確にいきますと、私自身がお誘いを受ける舞台というのが、コメディが多いんです。

さざり (まつみを一瞥・わざと・して) そりゃ、ラブ・ストーリーというワケにはねえ。(脚本に視線を落とす)

まつみ さらに正確にいきますと、ラブ・コメですね。

さざり ラブ・コメもおやりになる。

さなえ えっ、じゃあ、もしかして、いま東京でブレイクしている鶴土山寛一、愛称ウドカンの劇団『ラブ・コメ倶楽部』に出演も。

まつみ (当然のように) しましたよ。

さざり ええっ、私、こないだの舞台観たけど、何処に出てたっけ。

さなえ こないだのは、私も観たけど。えっと『東京千夜万夜』でしょ。

さざり あれに、出たの。

さなえ 出演されてましたかしら。

まつみ 夜桜見物の芝居でしょ。

さなえ・さざり そうそう。

まつみ 舞台に桜の木があったでござんしょ。

さざり あなた、桜の木の役だったの。

まつみ そんな役はありません。

さなえ たしかに桜の木はあったけど。

まつみ あの木の下に犬小屋があったでござんしょ。

さなえ あったかしら。

さざり あったじゃん。ほら、木の下に。

さなえ (思い出した) ああ、そう。

さざり 何で桜の木の下に犬小屋があるんだか、ワカラナカッタけど。

まつみ 藤吉郎という役を頂きました。

さなえ・さざり 藤吉郎。

まつみ 桜の木の下の犬小屋の中にいる犬です。

さざり 犬。(暫し、記憶を探るが) 犬。(さなえに) 出てきたっけ。

さなえ 犬は、(記憶を探る) ねえ。

まつみ 初日にご覧になりました。

さなえ いいえ、あそこは初日はまだ出来てないから、私は四日目ね。

さざり 私、楽の一日手前。

まつみ そうですか。

さなえ 初日が何か。

まつみ 初日には、居たんです。二日目に演出家のほうから、やっぱり必要ないなといわれまして。

さなえ・さざり ああ、そう。

まつみ (ここで、間を開けると、雰囲気的にマズイと判断して、即) あの、私、独り芝居をやったこともあるんです。

さなえ (あんまり興味はナイようだが) 最近、流行ってるもんね。

さざり で、どんなの、おやりに。

まつみ 『奇蹟のひと』です。

さなえ・さざり (顔を見合せ、申し合わせたように、まつみを凝視する。その視線は何だろう。訝しげなのか、威圧なのか)

さなえ 『奇蹟のひと』というと、あの、サリバン先生と、ヘレン・ケラーの。

まつみ 他にありますか? 『奇蹟のひと』・・・

さざり あの、アン・バンクロフトと、パティ・デュークが映画でやった、あの。

さなえ 大竹しのぶさんと、荻野目慶子さんが演った、あの。

さざり 『奇蹟のひと』を独り芝居で、

さなえ おやりになったのね。

まつみ (わりと平然と、軽く) やりましたけど。(口笛なんか吹き出す)

さなえ・さざり (黙して、まつみに、さっきとはまた違った視線を送る)

まつみ (突然) ウオ、ウオ、ウワラッ! (『奇蹟のひと』の例の名シーン)

さなえ (空のコップを覗いて) 水、もらおうかな。

さざり (同様に) そうね。

まつみ 持ってきます。

さなえ あら、でも、あなた、もうウェイトレスじゃないんでしょ。

さぎり 就労時間は終わったんでしょ。
まつみ いえ、よく超過するんです。

まつみ、立ち去った。たぶん、楽屋のトイレにでもいったのだろう。

さなえ (立って)

さぎり どうしたの。

さなえ ちよっとおトイレ。

さぎり (立った) あっ、じゃあ、私も行く。

二人、去ったので、誰もいなくなる。ポカンとした舞台だけが明々とした照明の中に主人の帰るのを待っている。主人たちはトイレだろう。ちゃんと、トイレタイムを自然に（ほんとに自然かよ、これが）創ってあげる作者の気配りである。よって、（何が よって」だ、カンナイけど）これより「3」とする。

3

まつみが戻ってくる。コップに水差しポットから水を注ぎ入れて、ポットは石畳に置き、残されて卓に置いてある脚本を手にとって、開く。つまり、（パラパラとはあるが）読んでみる。やおら、その脚本を卓に戻し、何が閃いたのか、突如として芝居を始める。芝居を始めたんでなきや、気が狂ったと思われるだろう。

ポケットから小さなまん丸いサングラスを出してかけた。といえば、もう察しがつくだろう。さき程彼女自身が述べた、独り芝居『奇蹟のひと』の1場面をやろうというのだ。

まつみ (サリバン先生になったつもりだ) お聞きヘレン、私も幼い頃両親を事故で亡くした。弟

がひとりいたが、弟は突然足が動かなくなり、私は次第に眼がみえなくなっていくた。弟の足はどんな医者にもみせても、治らないということだった。何故、治らないのと訊ねると、原因不明だからですと、どの医者も答えた。原因不明です。原因不明です。まるで申し合わせたように。・・・この、私の眼もそうだった。何故みえなくなっていくのか。どの医者も原因不明とだけいった。白内障や緑内障でもナイ。かといって視神経の異常でもナイ。

しかし、私の眼はみえなくなっていた。原因不明、原因不明。悪魔の呪文のように医者からそのコトバを聞いた。ある時、もう自分がすっかり盲目になるのを覚悟したその時、私は原因不明に思い当たった。病気が原因不明なのではナイ。原因不明は私なのだ。私自身、私の生きていること自体が原因不明なのだ。何だ、人間なんてみんな原因不明じゃないか。いったい原因がハッキリして生まれてきたヤツなんか何処にいらつうんだ。人間だけじゃナイ。海も山もこの宇宙だって、ああ、何も彼もが原因不明の産物なんだ。医学を責めても仕方がない。私は原因不明だ。私こそが原因不明なのだ。そういう考えが閃いた時、まるで奇蹟のように私の眼は光を取り戻していった。お聞きへレン、聞いているのかいへレン。

と、サングラスを外して、今度はへレンになる。

まつみ

ワラー、ウワラー（歩き回り始める）ワウラー・・・n

サングラスをかける。

まつみ

（今度はサリバんだ）へレン。そうか、聞こえないんだったね。へレン、へレンへレンへレン。（ゆっくりとサングラスを外して、急にへレンになる）ワラー、ウワラー（歩き回る）ウオーワー・・・n（素早くサングラスをかけて、またサリバんに）へレン、聞こえなくてもいい、聞こえないことの何処が悪い。へレン、お前が聞こえなくなったのは、その上、視えなくなったのも、高熱のせいだとか、遺伝子の病気だとかいわれただろう。でも、そんなものは、ぜんぶ、ぜええんぶ、ウソだ。へレン（と、へレンの襟首を掴んだようだ）お前が視えもせず、聞こえないのは、原因不明なんだ。原因不明でお前は喋れもしない三重苦を背負うことになったんだよ。おぼえておきなさい、へレン。原因不明に恨み言はいえない。（へレンをぶっている）ビシッ、ビシッ、ビシ、泣くんじゃない。ひとは犬や猫とは違うんだ。聞こえないくらい、なんだ。（ぶつ）ビシッ。視えないくらい、どうした。（殴る）バシッ。喋れないのが悔しいか。（どつく）ゴツン。ビシッ、バシッ。（ゆっくりとサングラスをとって、へレンになると、泣く）ワター、ウオーラー、オオウ、オオウ。（サングラスを素早くかける）じゃあ、生きなくていい。死んでおしまい。しかし、へレン、お前が死ぬことには原因がある。聞こえず視えず、喋れないからあ

の娘は死んだのだ。そう、世間のひとは四十九日いつづけるだろう。そうして、そのアトは、忘れ去られてお終いだ、ヘレン。イエス・キリストは十字架の上で磔にされて死んだ。釈迦、仏陀は、キノコを食って食中毒で死んだ。どんな偉いひとでも、ろくな死に方はしないんだ。だから、お前が死んだとて、おっ母さんと、おとっつぁんが四十九日泣いてくれるだけだ。それならば、ヘレン。原因不明のママで、生き続けてみようじゃないか。どうだい、ヘレン！（サングラスを投げ捨てた）ウ オ ー タ ー ア ア ッ。
（今度はヘレンがサリバンの首を締めているようだ）ウオッウオッウオッ。（サングラスを拾ってかける）待ちなさいヘレン。（サングラスを外して、サリバンを叩く）ビシッ（サングラスをつけて、反撃に出る。外してヘレンも反撃。サングラスをかけた外したりが激しくなって、どっちがサリバンだかヘレンだかわからなくなってくる。まあ、よくあるギャグです）待ちなさいサリバン、いや、どっちなの、私はサリバンなの、ヘレンなの。いつ時、そういうドタバタがつづくが、突然、やめて、サングラスはポケットに仕舞う。

（作者注。以上の芝居は『奇蹟の人』のテキストとまったく関係ありません）

まつみ ウォーラー、どうぞ。（着席）

さなえとさざりが戻ってくる。

さなえとさざり、着席。

まつみ 要するに『奇蹟のひと』というのは、それだけですな。

さなえ・さざり えっ。何の話。

まつみ いえ、ショータイム。

さなえ こっちはトイレタイムよ。

さざり そう。助かるのよ、こういうところに配慮して本を書いてくれる劇作家は。

さなえ このカフェのいいところは、トイレが広くて清潔なところね。

さざり そう、それと、ほらドアに布が貼ってあって、こう書かれているでしょ。

さなえ （代弁する）―当店のトイレをきれいにお使い下さいましてありがとうございます。代弁して、ごめんね。

さぎり えっ、さなえさん、あなた。（大便したのと勘違いしている）
さなえ えっ。

さぎり 大きいのしてきたの。

さなえ ダイベンの漢字が違う。

さぎり でしょうねえ、良かった。

まつみ あの、

さなえ・さぎり はい。

まつみ （腕時計をみて）そろそろ半ばかなと思うんですが、もういいかげんに、

さなえ ああ、はい。そうよ。そうでしょ。（とさぎりに）

さぎり そうよね。

さなえ だから、『もろびとこぞりて』よ。

さぎり そうそう。その話してたんだ。

まつみ 遅いですね。

さなえ えっ。

さぎり いま、何ていった。

まつみ 遅いですね、といましたけど。

さなえ あなた、誰か待ってるの。

まつみ ええ、あなた方が待ってる、そのひとを。

急速に暗くなり、短く音楽が入って、溶明。

4

当然「4」になる。

が、三人は、さっきと同じ。

さなえ （重大な発言がまつみから飛び出したのにも関わらず、強いてだろうけれど）ねえ、『もろびとこぞりて』ってどういう意味。

さぎり あのさ、それについては、私ね、最近ある本を読んだのよ。

さなえ 本筋から逸れるような本のこと、いわないでね。

さぎり 本筋から逸れる本で、例えばどんなの。

さなえ 例えば（と、思わず考えそうになって）こらっ、それよ、それが本筋から逸れる原因よ。
さぎり どれ。

さなえ あなたのもの、無根拠な好奇心。

さぎり 今度は無根拠な好奇心ときたのね。

さなえ で、どんな本なの。

さぎり まともな本だって。えーと、タイトルは『考えるための思考法』だったかな。

さなえ そんないい加減なタイトルの本があるワケないでしょ。

さぎり いい加減かしら。

さなえ 考えるということは思考するということよ。また馬から落馬になっちゃうじゃないの。

さぎり モンゴル。

さなえ それ、もう二度と私の前で口にしないで。

さぎり えーと、『カンガルーの

さなえ シャラップ。

さぎり えーと、

まつみ あの、それって『考えるためのヒント・思考の方法』じゃなかったですか。

さぎり ああ、それ。なんで、あんたが知ってるの。

まつみ 一昨日、店に忘れ物がありました、

さぎり あっ、そうだ。この店で読んでたんだ。

さなえ この店に忘れたの。

さぎり 忘れたの私。（と、まつみに訊ねる）

まつみ 忘れたことすら、お忘れなんですな。

さなえ あなた（もちろんさぎりにいってる）忘れないためのヒントって本、読んだほうが良かったんじゃないの。

さぎり で、その本、どうしたの。

まつみ 店長が持っていきましたけど。

さぎり あら、私のところに届いてナイ。ちくしょう、ガメやがったな。

さなえ ともかく、その本を読んでどうだったのよ。

まつみ 『ころびともぞりて』の謎が解けたんですか。

さなえ 『もろびとこぞりて』よ。（窘めているのか叱責しているのか、どちらでもいいけれど、

この場合は諫めているとはいえない。諫める、は目下の者が目上に意見する場合にしか使わない)

まつみ 『もぞりとこぼりて』ですね。

さなえ (吐き捨てる。あるいは、逆に感じ入ってる、つまり感心しているのか) あなたも、いい根性してるわね。

まつみ 『ぞもりと

さなえ (無論、遮って) 『もろびとこぞりて』です。

まつみ (さぎりに) だ、そうですが。

さぎり つまり、考え方の基本は分析なのよ。分析というのは難しいことじゃないの。早い話が、分けて考えろということなの。

さなえ 何だか今日初めて、さぎりさんの口からまともなこと聞いたような気分だわ。

さぎり だから、『もろびとこぞりて』も分けて考えるのよ。

さなえ 何と分けるの。

さぎり そうじゃなくて、『もろびとこぞりて』というコトバを分けるのよ。

さなえ 前言をやや撤回したい気分かな。

まつみ 分ければいいじゃないですか。分ければいいんですよ。

さぎり 自棄になったみたいにいわないですよ。

さなえ あんまり期待しないで聞くけど、分けるとどうなるの。

さぎり 当然、まず「も」でしょ。(と、当然のような表情でいう)

さなえ 「も」。

まつみ 「も」はモンゴルのモ。

さぎり そうよ。

さなえ 何が、そうよ、よ。そんな、「も」だけで、何がワカルのよ。ああ、期待しないで良かった。まだ神様は私の味方だわ。

さぎり だって『もろびとこぞりて』を細かく分けたら、まず「も」じゃん。

まつみ 分析というのは、そういうのをいうとですか。

さぎり そうじゃないの。

まつみ 違うような気がするとです。ヒロシです。

さぎり (さなえを窺う)

さなえ (首を横に振る)

さざり 違うような気もするけどさ。(譲歩したな)

まつみ 「も」ねえ、「も」ですか。「も」ですか。もですかでん。(黒沢明監督の『どですかでん』の駄洒落だろう)

さなえ わかるワケないでしょ、そんな「も」だけで。

さざり そうよね。

まつみ 細かく分け過ぎじゃなかとですか。

さざり じゃあ、「もろ」でいきましょう。どう。

まつみ 「もろ」なら、何とかなりそうですね。

さなえ なるもんならね。

さざり なるって。(ワリに自信ありそう)

さなえ どうなるの。

さざり 考えてみてよ。「もろ」よ、「もろ」。

まつみ 「もろ」・・・(マジに考えている)

さなえ 「もろ」か。(ほんとに考え出した)

まつみ 「もろ」ニング娘。

さなえ (当然、無視して)「もろ」って、ちょっとグロね。

まつみ モログロ。

さざり グロって。

さなえ グロテスクよ。ほら、もろにヤルとか、もろにみせるとか、もろ出しとか、なんかちよつとエロでもあるじゃない。

まつみ モロエロ。

さなえ つまり、ちよつとエツちなモノじゃないかしら。どう。(いい加減に考えていたら思いがけない答えが出たってとこ)

さざり ふんふん。(満更でもない)ちよつとエツチねえ。プチエツチね、いまふうにいえば。

さなえ 人気マンガでいえば、あだち充が源流というところかな。

さざり そうよ。何か、文化論になってきたみたいじゃない。(ややご満悦)

さなえ で、次はどうなるの。

さざり 「もろび」までいこうか。どう。

さなえ (やや引いた)うーん、「もろび」か。

まつみ もろび餅ってありませんでした。

さざり (おおいに同調して) あった、あった。

さなえ (卓を叩いた)

まつみ・さざり (驚く)

さなえ 何でも思ったことをいえばいいっていうもんじゃナイのよ。

まつみ 『ころびともぞりて』だと、簡単なんですけどね。(つい、口が滑ってしまったというところ)

さざり あら、そうなの。

さなえ ナンで。(冷やかに突っ込む)

まつみ (こうなったら、勢いだな) まず、「ころび」と「もぞりて」というふうに考えますわな。

さざり ほう。(合いの手みたいなもの)

まつみ そうしますとでんな、まず、何かが「転ぶ」ワケでんな。(と、意味もなく、いい加減な関西訛りになってる)

さざり さいでつか。(合いの手だな)

さなえ 『もぞりて』のほうは。

まつみ それは「手」がでんな、もぞるんでんな。

さざり ハイデツガ。(合いの手・にもなってる)

さなえ 何よ、手もぞるって。

まつみ これはでんな、こう、(と、所作で「もぞる」を示そうとする) 手がでんな、こういうふうになって「もぞる」んでんな。

さざり (あっさり否定する) 違うと思う。

まつみ 違いまっか。違い、まさか屋(名古屋人は松坂屋のことをこう称する)

さざり 何か違う。

さなえ 何かどころの違いじゃナイと思うは、私は。

さざり あっ、(と、何か閃いたのか、石畳に100円玉でも落ちていたのをみつけたのか。たぶん前者だろう)

まつみ えっ。(こっちは後者だと思って、地面をキョロキョロ)

さなえ どしたのよ。

さざり 私さ、気がついたんだけどさ、(余程のことらしいということは何える)

さなえ (よって真摯に応える) はい。

さざり さなえさん、どうして、そういう質問を私にしたの。

さなえ そういう質問って。

さぎり モンゴルの、

さなえ (もちろん、遮って) して、ナイ。そんな質問は。

さぎり だから、『もろびとこぞりて』ってどういう意味なんだろうって、私に聞いたのは何故なの。これって、重要なことじゃない。

まつみ モンゴルが何か関係あるんですか。

さなえ (怒りを抑えて) それはもう、終わったの。

まつみ モンゴルのね、

さなえ (強引に無視して) あれって歌なんですよ。(と、さぎりに)

さぎり そうよ。

さなえ いままで、意味を考えずに歌ってたなって、ふと思いついたのよ。

さぎり そういえば、そうよね。

まつみ モン、

さなえ・さぎり (まつみを睨む)

まつみ (必殺の誤魔化しだ) モンブラン食べますか。今日のケーキはモンブランなんですけど。

さなえ あいにく、私、ケーキは苺のショートしか食べないの。

さぎり 私は、万年筆だから。

さなえ・まつみ (さぎりの答えに) へっ。

さぎり だから、万年筆のモンブランなら持ってるけど、ケーキのモンブランは好きじゃナイと、いおうとしたの。

さなえ もう、あなたは、ややこしいんだから。

まつみ いまどき、万年筆ってめずらしいですね。

さぎり そりゃ、パソコンでワープロも打ちますよ。質仕事にだって使わなきゃならないから。でも、やっぱり重要な書類は、万年筆じゃないと。

まつみ 私はボールペンですね。離婚届けをいままで三枚書きましたが、

さなえ (話題を逸らすまいとしつつ、万年筆の話題には触れながら) あのね、いま、万年筆って静かなブームなのよ。いろいろな、世界のメーカーのを蒐集してるひとって意外と多いの。

まつみ あら、そうなんですか。

さぎり そうなの。(肯定ではなく、ささやかな驚きと半ばの疑問。これを「？」ひとつで現すことは出来ない。最近そういう輩がプロにも多いけど)

さなえ 私、派遣でテレホンやると（これはテレクラで働いているワケではナイ。派遣社員として、電話で客と応対する仕事をいってる）万年筆の注文ってケッコウあるの。たいていが男の人だけど、やっぱり、スタイリッシュだからじゃないかな。

まつみ （何かいおうと身を乗り出すが）

さなえ （制止して）だ、け、ど。（一息吸って）この話題はこれでお終い。問題は『もろびとこぞりて』よ。いい。

さざり そう、そうよ。

さなえ さざりさん、あの歌唄えるでしょ。

さざり 唄えると思うけど。

さなえ じゃあ、話が早いわ。

まつみ 話、早くなりますか。

さなえ 少なくともあなたたちが、ああだこうだというよりはね。

まつみ 私も唄えますよ。

さなえ じゃあ、二人て唄ってみて。

さざり （軽く咳払いして）くもお

まつみ 前奏はいいですよね。

さなえ （即断）要らないっ。

さざり・まつみ （唄う）くもくろびとこぞりくつてく むかくえまくつれく ひさくしくくうう
 まちくにくしくいい しゅわつきませえりく しゅわつきませえりく しゅわわあくしゅ
 うわああああ きくまくせりく

さなえ そうよねえ、そういう歌だわ。

まつみ ポイントは、しゅわつきませえりくつてどこですね。

さなえ どうして。

まつみ そのフレーズ、何度も出てきますから、ねえ。

さざり ああ、そうか。

まつみ たぶん、こうだと思うんですけど。これは、シュワツ、シュワツとお湯が沸いてくるようすですね。

さざり お湯があ。

さなえ お湯があ。

まつみ （唄う）シュウツ沸きませりく湯は沸きませりく。じゃないでしょうか。

さざり 違うと思うけど。

さなえ 当然でしょ。

さざり あのさ、あのさ、

さなえ えっ、ナニ、何。

さざり 歌詞の中に「ひさしくまちにし」ってあったでしょ。

まつみ (ポンと膝を打つ) あっそうか。

さざり ひさし君が町の西に

まつみ それだっ。(さざりを指さす)

さなえ (強く否定する) ちっがああう。(一息入れて) 違います。

まつみ 違うんですか。

さなえ ああ、もうバカの真似というか、阿呆のフリするのも疲れてきたわ。つまりこれは、「ひさしくまちにし」だから、長い時間待ってるんですよ。

まつみ 誰を。

さなえ 誰かが、その、シュってのが来るのをよ。

さざり シュって。

さなえ 主役、主人公、主だったひと、でしょ。

さざり 何だ、さなえさん、知ってるんじゃない。

さなえ 私が知りたいのは「もろびとこぞりて」の部分よ。

さざり ああ、それねえ、ワカンナイわ。

まつみ ワカランとですねえ。

短い間があって。

まつみ まあ、ともかく、私たちのように、ひとを待っているということでしょう。ね、そうじゃ
 ナインですか。えっ、えっ、えっ。(と、さなえに嘸みつかんばかりに迫りよっていく)

さなえ (仰け反って避けながら) いま何時。

さざり (腕時計をさなえにみせる)

さなえ 約束の時間は、とうに過ぎてる。

さざり というか、約束の時間なんて、したのかしら。

さなえ (さざりをみて、そういえばと思いつく) そうだ。約束の時間なんてあったのかしら。

まつみ クイックリー。ベリー クイックリー。私はすぐに来る、すぐに来る。聖書の末尾を飾る
コトバである。しかしながら、人間世界の七日間は、神の心臓の鼓動の一回でしかナイ。

神の七日間は、人間の時間にしておよそ百億年。聖書原理主義の主張するところであった。
さぎり 何、それ。

まつみ こないだ読んだ『人生ばかりが人生ではナイ』という本に、そんなことが書いてあったん
です。

さなえ ムチャクチャというか、ワケのわかんないタイトルの本ね。

さぎり ねえ、私の本、返して貰えるの。(不服そうにいう)

さなえ そんなことは、この際どうでもいい。(毅然としている)

まつみ 誰、待ってるんです。私たち。(重要なことを軽々しくいう)

さぎり そういえば、そういう芝居、あったよね。

さなえ なに、『ゴドーを待ちながら』のこといつてるの。

まつみ つまんねえ戯曲でしたねえ。シードラゴンとか出てきて、

さなえ エストラゴン。

まつみ ワラジミールでしたっけ。

さぎり そうね。(知ってるが敢えて正さず)

まつみ アトね、つまんねえのは『どん底』。それから『ガラスの動物園』、それからブレヒトの
は軒並みみんな、

さなえ それはアトで話しましょう。

まつみ 太宰治の戯曲も小説に比べるとつまらないでしょ。(同意を求めているらしい) えっ、ど
う、どうなの。

さなえと、さぎりが遠慮して黙しているの。

まつみ あのさあ、死んだひとのこといっちゃ何だけど、矢代静一さんのさ、『浮世絵三部作』つ
て『弥々』に比べると、もうインテリが、

さなえ まつみさん。

まつみ はい。

さなえ ここは、批評の場ではないの。

まつみ はい。

さなえ ここはね、
まつみ 私たち三人が、誰かを待ってる場なんですよね。

まつみをみつめる、さなえ、さぎり。
よって、

5

ということになる。

さぎり (やや倦怠感が漂って) 二日くらいかな。

さなえ 二日。何が。

さぎり それくらい待ってる感じがするってこと。

さなえ 何で三日でなくて、二日なのか、聞かないことにする。

さぎり 聞かれなくてもいい。三日だと坊主になるから。

さなえ そういうこと、いうだろうと予想はしてた。

まつみ 坊主ってマスコミでは使えないコトバなんですよ。

さなえ 僧侶っていつてるわね。

まつみ あれね、もともと、ポルトガル語だか、オランダ語だか、ラテン語系統の「ボンズ」から

きているコトバで、本来が差別罵倒のコトバなんですって。

さなえ それは、どんな御本でお読みになったの。『人生だけが人生ではナイ』からの引用ですか。
(明らかにまつみを揶揄している)

まつみ (そんなことには、ついぞ関心もなく) これはですね、『幸福になるためにしてはならない100の法則』です。

さぎり 読書家なのね、あなた。(これは、本心だろう)

まつみ それ程でも。

さなえ どんな傾向の本、読むの。(これは、少々小馬鹿にしつつのコトバであろう)

まつみ ミステリが好きなんですけど。

さなえ・さぎり へーえ。(そう関心があるとも思えないが、多少は意外だなっていう感じかな)
まつみ ですから、さなえさんが、さぎりさんにコップの水をおかけになった理由、散文的に表現すれば、何故さなえは、さぎりに水をぶっかけたのか。私、ワカルんです。

しばしの間。

さざり わかるって。

さなえ どういうこと。

また、しばしの間。

さざり (ハッキリとまっみに向き直って) どういうことよ、それ。

さなえ (同じく) 何がしたいの。

まつみ ミステリを読むとね、深入りしちゃうというか・・(と、ここまではぼんやりと呟いていたかのようなのだが、急に跳ね起きたかのように) 知ってますか。「ミステリと演劇によって世界は記述できる」ってコトバ。

さなえ コトバというより、命題ね。知ってますよ。それ、彼が創った命題だもの。

さざり そう。彼の創った命題。

まつみ 最近、この「命題」というコトバも間違って使われちゃって、「至上命題」なんてマスコミやら、一部の知識人、文化人の方々が平気で使ってますよねえ。

さなえ 正しくは、「至上課題」か、「至上命令」だわ。

さざり で、ミステリに深入りすると、どうなるの。

まつみ 例えば青酸カリなんですけど。

さざり ああ、人殺しの方法によく出てくる毒薬。まつみ あの『神聖喜劇』の大西巨人さんですら、間違ってるんです。この劇薬の性質というか、効果を。

さなえ ええつ、あの大西巨人先生が。

まつみ 『三位一体の神話』っていう小説で犯人は、青酸カリを殺人の手段で使うんですけど、劇薬もクスリですから、有効期限というのがあるんです。

さざり 切れてたワケ。

まつみ はい。大西巨人先生たったひとつのミスです。

さなえ ほーお。(これは、素直に正直に驚いている)

まつみ よくある間違いは、海外小説の翻訳の間違いをそのまま引用してる場合。ある翻訳家が、青酸カリで殺された被害者からはアーモンドの香りがするって、テキストを訳し間違えた

んです。その後、受け売りで、通俗ミステリにちよいちよい出てきます。ほんとうは、杏の匂いです。

さなえ　で、私が彼女に水をかけたのが、どんなミステリになるの。

さぎり　そう、それ。

まつみ　あの水の中には、毒薬が入っていたということです。

さぎり　毒薬が。

まつみ　ええ、皮膚から浸透する効果のある毒薬です。モンゴルの湿地に育つ毒草から抽出された成分ですね。

さなえ　つまり、何、私は彼女を殺そうとしたというの。

まつみ　ピンポーン。

さぎり　ナンデヨ。（片仮名で表されるがごとき疑惑の心境なのだろう）

さなえ　ごめんね、さぎりさん。私ね、今度という今度は、この（と、『もろびとこぞりて』の脚本を手にして）主役、やりたいの。

さぎり　私だって、やりたいわよ。そんなの同じでしょ。

さなえ　でも、主役はひとりよ。

さぎり　わかってるわよ。何で私たちが、ここにこうしていると思ってるの。彼からの連絡を待ってるんでしょ。誰が主役だか、彼しか知らないんだから。

さなえ　ええ、でも、あなたには無理。

さぎり　何よそれ、私にはこの本の主役をやるだけのスキルがナイっていうの。

さなえ　とうか、あなた、もうすぐ死ぬからよ。

さぎり　（しばし、さなえを凝視しているが）ほんとに、あの水に毒薬、入れたの。

さなえ　ごめんね。

さぎり　かも知れないと思って、あなたが知らないうちに、気づかれないように、コップはすり替えておいたわ。

さなえ　それを知ってて、私、あなたのコップの水も、あなたにかけたの。

さぎり　あつ、そうか。

さなえ　ごめんね。

さぎり　私、死ぬの。

さなえ　どうしても、今回は主役がやりたいの。私ももういい歳だし。

さぎり　それは私だって同じだっていったでしょ。私だってこの歳になるのに、いまだにハーフト

イムで、どんなに苦勞して女優やっているとってんのよ。

さなえ お互いさまよ。

さぎり お互いさまなら、人殺ししてもいいという理由にはならないわよ。

さなえ 理由にはならないけど、動機には充分なるわ。

しばし、緊張をともなった沈黙が支配するが、

突然、

まつみ (唄う) ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
ハレルヤ
ボンギリ ボンギリヤツシヤ ゴメンヤツシヤ〜。

当然(当然と突然が多いなこの芝居) さなえも、さぎりも、まつみをみる。

まつみ 毒なら私も入れました。

さなえ・さぎり (ティカップを覗き込む)

まつみ はい、そのお紅茶に。アールグレイのホットにでござんす。

さなえ 何で、あんたが毒を盛るのよ。

まつみ 私だって、いつまでも木下藤吉郎やっつけられません。

さぎり 何よ木下藤吉郎って。

さなえ 犬の名前。

さぎり (思い出した) ああ、あの幻のラブ・コメ。

まつみ 私もあなた方がいう彼に呼ばれて、ここに居るんです。彼を待ってるんです。

さぎり 紅茶に毒入れたの。

まつみ アールグレイが何故、アイスコーヒー専用だったか知ってますか。

さぎり (聞いていない。独り言) 水に毒、紅茶に毒、私、ダブルで毒なの。

まつみ アールグレイは、香りが強過ぎるんです、ホットにすると。でもって、古く中世のヨーロッパではよくこのアールグレイの紅茶で毒を盛られて貴族なんか死んでます。だって、香りが強いから、毒の痕跡が消えるんです。それからですよ、アールグレイをホットで飲む習慣がなくなったのは。

さなえ で、あなたは、アールグレイに毒を入れた、と。

まつみ すいませんね。私もどうしても、今度は主役がやりたいんです。

さなえ わかったわ。

まつみ わかって頂けましたか。

さなえ いいえ、わかったのは『もろびとこぞりて』の意味。

さぎり えっ、わかったの。

さなえ 諸人挙りて、ということとはわかっていたの。

さぎり・まつみ はっ？（初めてのクエスチョンマークだ）

さなえ いま、私、漢字で台詞いったの。

さぎり 漢字で。

まつみ 聞こえませんでした。

さなえ アタリマエでしょ。漢字は聞こえたりしないもの。

さぎり でも、漢字で台詞いったんでしょ。

さなえ それは、私のイメーজの中でっこと。

さぎり どんな漢字。

さなえ 諸々の人が、挙ってという漢字。挙っては挙手の「挙」で、挙っては挙りての音便変化。

まつみ おんびんへんか。穩便に、穩やかに変化するんですか。

さなえ 促音。つまる音。「さつき」とか、「もっぱら」とか、小さな「っ」になることの変化。

さぎり つまり、

さなえ わかったのは、そういうコトバそれ自体の意味じゃなくて、ここにおける、コトバの意味。

わかったでしょ。（と、さぎり、まつみが軽く頷いたのを確認して）ええ、そうよ、そう

なのよ。まさにこの情況こそが『もろびとこぞりて』よ。

さぎり なるほどねえ。

まつみ まあ、どういう情況にいたしましても、生き残るのは私だけですから。

さぎり （まつみに）あなた、ほんとうに彼に呼ばれたの。

まつみ 失礼ね、私も女優よ。あなた方と同じ、歳だけくった売れない女優。仕事の来ないハーフ

タイムの女優。演劇なんかに身を染めて、婚期も男も逃した女優。（と、平然として、ポ

ツケからハンケチを出し、両手で顔を覆う。ほんとか嘘か、声を出して泣いているふうだ）

さなえ あなたが、紅茶に毒入れたなんて、誰も信じてないわよ。

さぎり じゃあ、私の水の毒も、ウソなの。

さなえ アタリマエでしょ。

さぎり 良かった。

さなえ 女優か。女優ね。私、ひとり知ってる。お酒とクスリで呂律があやしくなっても自腹でプロデュースした舞台に主演して、借金抱えて、ちやうど親の会社が倒産して、それまでは社長令嬢だったのが、働きに出て、パチンコ屋の店員やりながら、それでも会うたびごとに素面ですました顔しながら——私ね、こうみえても「大女優」なの——って必ずいうのよ、そのひとは。

さぎり 狂っちゃったの。

さなえ ひとのことはいえないわ。

まつみ 私の使った毒ですが、それはモンゴル産の猛毒で、羊の陰茎から抽出された、それはそれは貴重なもので、体内に残留しなければ、警察の鑑識のどんな検査にも反応しないんです。

さぎり まだ、どうか。

まつみ だって、話を暗くするのはイヤなんです。私は待ちますよ。彼を信じて待ちますから。

さなえ そりゃあ、私も待つわ。

さぎり もちろん、待つわよ。

さなえ でも。

さぎり えっ。

さなえ 待たなくてもいいかも知れない。

さぎり (そういう語り方に対して、またかとは思いつつも) 何をいつてるんだか、私には、よく、まつみ (こっちはキツパリ、さくっと) じゃあ、帰ったらどうなんです。

さなえ (まつみを一瞥するが) そうよね。

さぎり えー、どういうこと。さなえさん、ナニいつてるの。

さなえ 帰ればいいのよ。(何やら決意したらしく) いいこと、「身を引く」という態度も大切なんじゃないかしら。

さぎり あなた、身を引くの。

さなえ 私じゃないわよ。

まつみ じゃあ、誰が身を引くんです。ここから去りゆくんです。

さなえ 簡単なことよ。それを決めればいいのよ、彼が来る前に、私たち三人で。

まつみ ジャンケンでか。

さなえ 阿呆。

さぎり どうやって決めるのよ。

さなえ 誰が彼のことをイチバン理解しているか、他の二人が残りのひとりやふたりに認めたら、そのひとを残して、二人は去りましょう。

まつみ 風とともに。

さなえ そう。

まつみ 『田園に死す』という映画知ってますか。（と、いきなりの先制攻撃）

さなえ 寺山修司さんの監督したヤツね。

さぎり 観たわ、私。

さなえ もちろん。

まつみ あのラスト・シーン記憶してますよね。

さなえ エンディングのコーラスの中、人々が去っていく。（そのコーラスのメロディを口ずさんでみる）

さぎり 青森の実家で、母親と主人公が二人で食事をしていると、まわりの壁が倒れて、それがセットだったということがわかるんですよ。で、姿を現すのが新宿三光町。

まつみ ええ、あの有名なラスト・シーン。

さぎり それがどうしたの。

さなえ もう、三者択一の闘いの中にいるのね私たち。

まつみ そうです。

さなえ あのラスト・シーンと彼との関係はナニ。

まつみ あのラスト・シーンは前例があるんです。

さなえ・さぎり ええっ。

まつみ といっても、実現はされなかったんですけどね。『幕末太陽伝』も御存知ですよ。ね。

さなえ もちろん。

さぎり 彼が敬愛してやまない川島雄三監督の代表作ですよ。

まつみ 主役のフランキー堺扮する佐平次が、あの映画のラスト・シーンでは海沿いを去っていきませぬ。あれは、川島監督の当初のアイデアでは、周囲のセットが倒れて、新宿の町並みが姿を現し、その中に佐平次は消えるということになっていたんです。でも、関係者すべて、特に、主役のフランキー堺の猛反対にあって、やむなく、ああいうラストになったんです。

さざり じゃあ、『田園に死す』は、パクリなの。

まつみ さあ、それはわかりません。同じことを寺山さんが思いついただけかも知れません。この話は知らなかったんですよね。

さなえ 初めて聞いたけど。

さざり 私も。

まつみ 私は、彼からこの話を直接聞きました。

さなえ ふーん、第1ラウンドから凄まじいジャブね。

まつみ 私はストレートのつもりですけど。

さなえ さて、それに対抗しろってことね。

さざり 『大利根月夜』『ゆりかごのうた』『コンドルは飛んでいく』『並木の雨』『影を慕いて』

『島原の子守歌』『北帰行』『ラブ チャイルド』『チュールリップのアップリケ』『ブラ

ンデンブルグ協奏曲』『愛の讃歌』『望郷子守歌』『テネシーワルツ』『哀しき雨音』『

アランフェス協奏曲』『禁じられた遊び』『夜明けのスキヤット』『エデンの東』『妖術

武芸帖』『青い背広』『哀愁の夜』『帰れこの胸に』『紅花物語』（ああ、全部いえた、

良かった。よくおぼえました）これ、彼が戯曲に挿入するために録音した音源よ。私、聞

かせてもらったわ。全部。おそらく、私だけでしょう。

さなえ 連打で来たのね。

さざり さなえさんの番のようだけど。

さなえ 彼の子供嫌いは有名よね。でも、ユニセフの会員で募金してるってことぐらいは誰でも知

ってる。フィリピンに里子がいて、その娘の写真を観たことがあるのは、（ここで決め手

かと思わせて）私以外にもいるでしょう。（もちろん、あなた方は観てないでしょうけど

ね、という表情だ）しかし、隠し子までは知らないでしょう。

さざり まさか。

まつみ いるの。

さなえ 私とのあいだにだったらいいんだけど、彼は自分の劇団の女優とは、そういう関係を一切

持たないひとだから。

さざり 何処にいるの。

さなえ 京都。とある劇団の女優。といっても、私たちと同じハーフタイムの役者さんだけど、九

州の出身で、年齢は32歳。子供は3歳の男の子。名前は敦（あつし）。もし自分に何か

あった時は頼むといわれたの、私。彼から。

まつみ そおんな、そおんなのは、反則ですよ。だって芝居とは関係ナイじゃん。私たちは、彼の日常についてどうこう話してるんじゃないんでござんすよ。(むくれる)

さぎり はーん、でも絶対秘密の切り札なんだ。

まつみ いきなりのアッパーカット攻撃じゃないですか。

しばしの沈黙の時間が流れて。

さぎり 無駄だと思う。

さなえ そうね。

まつみ 無駄ですたい。

さなえ 第2ラウンドはナシ。待ちましょう、やっぱり。

まつみ・さぎり (黙って頷く)

と、カフェの表のドアの開く音がする。カウ・ベルがついているのだ。

三人立ち上がって、その方向をみた。

溶暗。

音楽あって、暗転。

6

溶明。

裸の素舞台。

さなえ、さぎり、まつみが、旅支度の服装で並んで立っている。

彼女たちの前に、大きめの旅行鞆。

ここで、いままでのカフェの芝居は、彼女たちの演じていた「お芝居」だったのか、とか、劇中劇なのかとか、まだ芝居はつづいてんのかとか、考えなくていい。(と読者と客にいつてる) こういうことが出来るのが、戯曲の醍醐味なのだ。

さぎり 次は何処だっけ。

まつみ エジンバラ。

さなえ あら、初めてね。まつみさんのウィットに富んだユーモア。
まつみ 次は滋賀県の大津市。びわ湖ホール小劇場。ノリウチよ。

さざり ノリウチかあ。

さなえ アト、どれだけ旅をすればいいのかしら。

まつみ 予定表みれば。

さなえ 詩情がナイわねえ。

まつみ シジョウ。

さなえ 私が「アト、どれだけ旅をすればいいのかしら」といったのは、今度のお芝居の巡演と、
女優としての人生の哀感を重ね合わせて語ったのよ。

さざり つまり『旅路の果て』ね、ジュリアン・デュビュビュエの。

さなえ 年若い俳優専門の養老院がシチュエーションの映画。

まつみ 私だって、あの映画観て、泣いたよ。

さざり ああいう映画ナイわねえ、最近。

さなえ あるんだけど、目立たないのよ。

まつみ そうよ。なんというか、子供のオモチャで喜んでいるような大人の映画ばかりが目立ち
やって、気づかないのよ。

さなえ リアリズムの問題かなあ。

さざり リアリズムの問題って。

まつみ 偉そうに。わかってんの、リアリズムが。

さなえ わかってるわよ。

さざり・まつみ ほーお。

さなえ ここに、ガラスのコップがあるとするでしょ。（と、右手を真っ直ぐ前に）

さざり ガラスのコップね。

まつみ はいはい。

さなえ （パツと手を広げた）それが床に落ちるの。どうなる。

さざり 割れるんじゃないの。

まつみ 碎けるわよね。

さなえ それってリアリズムかしら。

さざり リアルでしょ、やっぱり割れたほうが。

さなえ （自信あり）リアリズムは割れないのよ。

まつみ (静かな納得) 割れないんだ。

さざり (嬉しそうな疑問) なんで。

さなえ ガラスのコップが床に落ちて、何故、割れなかったのかということ、誰にも納得がいくように、描くのが、私たちのリアリズムなの。

さざり 受け売りでしょ、それ。

さなえ あら、バレちゃった。

まつみ 旅が終わるまでに、ほんとにエンジンバラに行けるといいね。

さざり そんなに海外がいいのかって顔するひと、いるでしょ。でも、私はいつてみたいわ。ロンドンやニューヨークでもいい。そういうところの舞台に立ってみたいの。

さなえ そうね。

まつみ 欲望、希望、どっち。

さなえ さあ。

まつみ 願望、羨望、どっち。

さざり さあ。

まつみ 私、リアン・ギッシュが好き。何のロマンスもなく、生涯独身だった、アメリカ映画史上伝説の女優。私は特に『狩人の夜』のお母さん役が好きだなあ。知ってる、チャールズ・ロートン唯一の監督作品。(誰に向かって喋っているのか、判然としない。まるで、架空の誰かに向かって語っているようだ) 漆黒の童話。黒水晶を透かして観た世界の風景。驚きを通り越して展開する物語。逃げる兄と妹。追うロバート・ミツチャムの悪魔の宣教師。毅然として、ライフルを構えるリアン・ギッシュ。93分の上映時間が生涯つきまとう、長く深い夜の夢のような映画。

さざり 私はイングリッド・バーグマン。『カサブランカ』もいいけど、ほんとうにいいのは『ガス燈』よ。彼女はヒロインのポーラ役で、アカデミー賞の主演女優賞を受賞したわ。あの原作が戯曲だったこと、あんまり知られてナイのよね。元はパトリック・ハミルトンというひとの舞台劇だったの。ミステリと、ラブ・ロマンスがみごとに融合した作品は、小説ではイーデン・フィルポツの『赤毛のレドメイン』があるけど、映画では、史上稀な傑作が『ガス燈』だといわれている。バーグマンは家庭を棄てて、とある映画監督のもとに走ったのが原因で、ハリウッドから追放されるんだけど、57年に二回目のアカデミー主演女優賞を受賞して、カムバックした。スクリーンからは想像もつかない、確固たる信念の女優よ。

さなえ

ローレン・バコールかな、私は。いろいろ出てるけど、デビュー作の『脱出』が最高ね。後の旦那になるハンフリー・ボガードとの共演。何といってもハワード・ホークス監督とこの二人は黄金の三角形ね。命懸けの脱出に向かうラスト・シーンのあの、コンビニへでも行くような飄々としたエンディング。バコールがボガードにいう台詞。If you want anything, all you have to do is whistle. 用があつたら口笛を吹いて」台詞はこうつづく。口笛の吹き方知ってる？唇をすぼめて息を出すのよ」この用があつたら口笛を吹け」というコトバはハンフリー・ボガードのお墓にも刻まれてるんだって。どういうワケか、この台詞と菊地章子の『岸壁の母』がつながっちゃうの。たぶん、菊地章子の有名な『星の流れに』の二番がく煙草ふかして 口笛吹いて」だからだと思っただけ。

まつみ

『岸壁の母』って、浪曲の女のひとが唄ってるんじゃないの。

さなえ

菊地章子は二葉百合子の『岸壁の母』を一言「下品だ」と評しているわ。

さざり

何かスゴイね。

さなえ

島倉千代子がデビューしたての頃、先輩に意地悪をされて、ある歌謡ショーで、先に唄う先輩の女性歌手が、その日の島倉千代子と同じ柄で仕立てた着物を着て唄ったのよ。楽屋裏で途方に暮れてべそをかいていた島倉千代子を、菊地章子がみつけてワケを訊ねたの。そうしてこう助言したそうよ。あなたは着物、歌、どちらで勝負するの」

三人、無言で、裸の素舞台を眺める。

そのうち、さざりがピン・ルームに人影をみつける。

さざり

あら、ピン・ルームに誰かいる。

まつみ

(手をかざして) ほんとだ。まだこのスタッフさんがいるんだ。(手を振ってみる) センターさくらん。

と、センター・ピンが、三人を抜く。

さなえ・さざり・まつみ まあっ。

まつみ サービスね。

さざり そういえば、今度の舞台、ピンがなかったね。

さなえ やっぱり、ピンで抜かれると気分いいわ。
 まつみ そうすると、ここで私たちが『もろびとこぞりて』を合唱して終わり？
 さなえ ふつうはね、でも、へそ曲がりの彼の芝居は違うのよ。

ここで、三人、『恋のバカンス』をコーラス。

唄い終わって、三人、礼。

ピンが落ちる。

さなえ さあ、行きましょう。

まつみ あっ（と、床をみる）

さざり どうしたの。

まつみ バミッタアトのテープが。（と、床のテープを剥がす）

この辺りから『希望』（ただし、石川さゆりバージョンで）が入ってくる。

さなえ （まつみの、その姿をみつつ）忘れ物ね。

さざり さあ、もうちよつとよ。

さなえ ええ、もうちよつとね。

まつみ もうちよつと、もうちよつと、もうちよつとよ。

三人、去りゆく。

残された舞台に『希望』静かに流れて。

初稿	二稿	三稿
20050623	20050625	20050626

作者より）

一応、

さなえー天光眞弓

さざりー葛西佐紀

まつみー芹川 藍

を想定して書かれております。

ご参考まで。

北村 想

この戯曲はたいへん読みやすく書かれてありますが、演じてみると意外に困難を伴う場合がございます。

充分ご注意のうえ、慎重、念入り、徹底なる稽古をもって臨まれることをお願いいたします。
(作者・拝)